

■正誤表『基礎からくわしい パワーエレクトロニクス回路 (改訂2版)』 (平成27年8月20日第1刷用)

頁・該当箇所	誤	正
p. 103 上から17行目の式	$\therefore v_{pn} = v_c - v_b$	$\therefore v_{pn} = v_a - v_b$
p. 172 (8.11)式から2行下	動作波形の具体的な作成手順は8.2節…	動作波形の具体的な作成手順は8.1.2節…
p. 57 参考欄の説明を右記に差替え ※網掛部分を追加、赤の取消線部分は削除	$V_R = \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} v_R d\omega t$ は定常状態で得られる。 $v_R = V_R$と書けば $v_L = v_{pn} - v_R = v_{pn} - V_R$ であり、 定常状態時の1サイクル間における v_L の(正側面積－負側面積) $= \int_0^{2\pi} v_L d\omega t = \int_0^{2\pi} (v_{pn} - v_R) d\omega t = \int_0^{2\pi} v_{pn} d\omega t - \int_0^{2\pi} v_R d\omega t = \int_0^{2\pi} v_{pn} d\omega t - 2\pi V_R = 0$ $\therefore V_R = \frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} v_{pn} d\omega t \quad (3.1)$	
p. 67 上段の説明を右記に差替え ※網掛部分を追加、赤の取消線部分は削除	a 点電位 v_1 b 点電位 v_2 c 点電位 v_3 } の中で一番高い電位(v_{MAX})のダイオードかつ、 その電位電圧 $(v_{MAX} - v_{MIN}) > v_c$ の場合に ON 負群ダイオード 3個の負群ダイオードの中でどのダイオードが ON するかの判定は次のようにする。 直流側が RL 直列回路の場合は、 a 点電位 v_1 b 点電位 v_2 c 点電位 v_3 } の中で一番低い電位のダイオードが ON 直流側が RC 並列回路の場合は、 a 点電位 v_1 b 点電位 v_2 c 点電位 v_3 } の中で一番低い電位(v_{MIN})のダイオードかつ、 その電位電圧 $(v_{MAX} - v_{MIN}) > v_c$ の場合に ON	
p. 86 上から11～13行目 区画3の説明を右記に差替え	区間③ ⑥ 区間③の初期から制御角 α になるまでの間は、 v_a が上昇して Q_{b1} には順電圧が加わるがゲートパルスが出ないので Q_{b1} はまだ ON にならず、 Q_{b2} は L の電流維持作用で ON を継続する。一方、 D_{n2} の電位は D_{n1} の電位よりも低くなるので D_{n2} が ON して D_{n1} が OFF し、回路状態は図 4.19(e)になる。この結果、電源 v_a は開路されて $i_a = 0$ になり、また、pn 間は短絡されて電圧 $v_{pn} = 0$ になるが、 L の蓄積エネルギーで i は減衰しながら RL 回路を環流する。	